

中国語(デザイン学部)

選 択 開講年次：2年次前期 科目区分：演 習 単 位：1 単位 講義時間：30 時間
※平成 28 年度（編入生は 30 年度）以降入学生は3年次前期

■科目のねらい：中国語の基礎的な文字・発音・文法を学習し、基本的な会話文を習得するとともに、異文化コミュニケーションという観点から、中国に対する理解を深める。

- 到達目標：①中国語で自己紹介ができる。
②中国語で初歩的なコミュニケーションができる。
③中国語の特徴を通して異文化を理解する。

■担当教員：照井 はるみ

■授業計画・内容：

- 第 1 回 ガイダンス：「中国語学習を始める前に」、「自分の名前は中国語で」、「挨拶用語」、DVD鑑賞：ルポ「上海の街並・建築の変遷」、ルポ「中国人の現代生活―夢を叶える」
第 2 回 「発音Ⅰ」・第 1 課 自己紹介
第 3 回 「発音Ⅱ」・第 2 課 これは何ですか
第 4 回 「発音Ⅲ」・第 3 課 これはいかがですか
第 5 回 第 4 課 買い物
第 6 回 第 5 課 どこにありますか
第 7 回 第 6 課 何がありますか
第 8 回 第 7 課 ホテルにチェックイン
第 9 回 第 8 課 何時に行きますか
第10回 映像で知る中国：ルポ「中国少数民族大運動会」、ルポ「中華武術」、アニメ版・京劇舞台版「三岔口」、アニメ版・京劇舞台版「西遊記-三打白骨精」／「中国茶を味わう」
第11回 第 9 課 タクシーに乗る
第12回 第10課 試着と支払い
第13回 第11課 苦情を訴える
第14回 第12課 紛失届けを出す／自己紹介練習
第15回 自己紹介発表会：全員が発表者で審査員
スライド鑑賞：「北京飯店本館・旧館・新館」、「円明園西洋遺楼」、「胡同」、「台湾の古建築」、「パリの中華街」

■教科書：『最新版 1年生のコミュニケーション中国語』（CD付）白水社 2,200円+税
補助プリント：毎回プリントを配布し、歴史・生活・文化などを紹介する。

■参考文献：『近くて遠い中国語』阿辻哲治著（中公新書）、『貝と羊の中国人』加藤徹著（新潮新書）、『China 2049』マイケル・ピルズベリー著（日経BP社）、『美麗島紀行』乃南アサ著（集英社）、『中国人とアメリカ人』遠藤滋著（文春新書）、他にガイダンスで配布する「参考図書目録」（大学図書館所蔵）を参照。

■成績評価基準と方法：定期試験（学期末）70%、授業態度・出席30%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	定期試験100点満点で80点以上取得のこと。	70
授業態度・発表	◎	◎	○	毎回授業に出席しその内容を習得することが基本。1回欠席で-5点。	30
出席				2/3以上の出席。	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■関連科目：

■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：2015年11月、北京で日本の学生訪中団と交流した中国のエリート学生たちは20歳前後の若者。髪型や服装はおしゃれだし、日本語もうまい。知り合って2時間ばかりのうちに互に打ち解けて笑い合い、ファッションや恋愛の話で盛り上がったという。今や日中学生双方の生活感覚には大差が無い。一方「中国は発展し、余裕ができた。我々の出番が来たのだ」と主張し、アジアと欧州を陸海のシルクロードで結ぶ経済圏構想「一带一路」を対外政策の柱とし、強気の「大国」外交を拡大展開する構えの中国政府。また内戦の末に1949年に分断した中国と台湾は、2015年11月7日、66年ぶりに首脳会談を行った。歴史は正に動いている。授業では語学学習に加えて中国の近現代史・社会・文化・生活についても学習し、中国に対する視野を広げていきたい。